

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

本校の1年間の教育活動を振り返り、その取組について評価を行いました。学校評議員を交え、学校評価の適切さや改善策の適切さを評価していただく、学校関係者評価委員会を設置し、評価書として下記にまとめました。

1 屯田北中学校区における学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
目指す子ども像	「地域を愛し、共に歩む子ども」の育成	A	・学校運営協議会において、各委員から地域へのあふれる思いや学校との連携について意見交流が重ねられ、「目指す子ども像」の具体化が進んだ。	A	A
今年度の重点	1. 組織体制の確立と運営 2. 子どもの声を反映した活動の推進 3. 防災・安全意識の共有	A	・第1回会議にて規約承認、役員選出、年間スケジュールを決定し、円滑な組織運営を開始できた。 ・生徒会サミット(7/18)に向けた児童生徒による小中交流が活発に行われ、挨拶向上ポスターの作成・掲示を具体化できた。 ・幼保小中高が連携した防災教育の必要性を確認し、次年度のグループ別活動(防災教育・活動の確立)の原案が作成された。	A	A

2 屯田北小学校における学校関係者評価

- ① 本年度の重点目標 みんなでとりくむ みんなでつくる みんなでかんじる
 ② 本年度の経営方針 学び・成長に誇りをもてる教育～子どもの成長を協働の意識で支え合う学校に～
 ② 目指す子ども像 夢をもち ねばり強く取り組み 認め・高めあう子ども
 ④ 自己評価結果に対する学校関係者評価 (A 十分 B おおむね十分 C やや不十分 D 不十分)

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学ぶ力	①主体的な学びの育成	A	子どもの学ぶ意欲を高める授業を行う。子どもが見通しをもって課題を追究し、自身で調べたり、考えを語ったりしたくなる授業づくり。	A	A
	②学ぶ楽しさの実感	A	体験的な学びを通して、子どもの考えを価値付け、自信をもたせるとともに、友達と学ぶことの価値を感じられるよう、振り返りの仕方を工夫する。	A	A
	③学びの習慣の確立	B	一人一台端末を必要に応じて持ち帰り、活用することで宿題や自主学習を充実。学年の実態に合わせて宿題から自主学習への移行を進める。	A	A
学校関係者評価者による意見		引き続き、どの子どもも学ぶ楽しさを感じられるような取組を続けてほしい。			

豊かな心	④道徳教育を通じたしなやかな心の育成	A	一人一人の強さや弱さを自分の個性と受け止め、互いに認め合う姿を認め励ます。	A	A
	⑤命を大切にする指導・いじめ防止	A	教育活動全体を通して、命の大切さについて指導を継続し、子どもの日々の変化を細やかに捉える工夫。いじめに対する組織的対応の充実を図る。	A	A
	⑥目標設定とよりよく生きる力の育成	A	夢や目指す姿について考える場を設定し、児童会活動や中学校との交流等を通して、将来に対して具体的な目標をもてるようにする。	A	A
学校関係者評価者による意見		これまで同様、遠足・学習発表会・運動会などの取組を充実させて、豊かな心を育ててほしい。			
健やかな体	⑦日常的な運動の取組による伸びの実感と意欲の向上	B	委員会活動と連携した日常的な縄跳びの取組やマット・跳び箱の取組重点週間を継続し、意欲を高めるとともに、外遊びを推奨していく。	A	A
	⑧健康・生活習慣に関する意識の向上	B	養護教諭や栄養教諭による健康指導を通して、児童自らが心身の健康について考えることができるような場を構築する。	A	A
学校関係者評価者による意見		ティネスキー場での2回にわたるスキー学習の取組は評価できる。			
信頼される学校	⑨誠意あるきめ細やかな対応	A	児童や保護者の困りに寄り添い、教職員全体で情報を共有し、諸問題に誠実に取り組む。	A	A
	⑩危機管理	A	実際の災害を具体的に想定し、児童が自分の命を守る行動を考える避難訓練等を継続する。	A	A
	⑪情報共有、保護者・地域との連携	A	すぐるやホームページを活用し、正確でより早い情報発信や、情報共有に努める。	A	A
学校関係者評価者による意見		コミュニティ・スクールをはじめとした地域との連携など子どもたちのための活動を進めてほしい。			